

式辞（平成20年度）

騒がしい世間から離れてしばしの学生生活を送られ、本日もめでたく卒業式を迎えられた卒業生の皆さんにお祝いの言葉を申し述べます。世間は騒がしいばかりでなく、常に不安定なものですが、近年はとりわけ不安定かつ不安な状況が続いています。こういう社会へ皆さんを送り出すにあたり、皆さんが本学でどのような生活を送り、なにを身につけられたか、ふりかえてみないわけにはいきません。皆さんの多くは、四年前に入学されて、まず八王子に通われました。八王子キャンパスは、都心から離れた場所にあり、通うのはそれなりに大変だったはずですが、着いてしまえば、明るい太陽、濃い緑、さわやかな風に恵まれた別天地でありました。スクール・バスや広いグラウンドや大きな図書館など、思い出は尽きないことと思います。そして皆さんはここ、皇居と神田古本屋街との中間に位置する神田一ツ橋キャンパスに移られました。ほとんど時を同じくして、本学は30年間に及んだ八王子での日常的な教育活動を打ち切り、神田集中化を達成したわけですが、八王子での生活はいまなお美しい思い出として私たちの心の中に息づいています。変革期に学生時代を過ごされた皆さんには、あるいはご苦労をおかけした面があったかもしれません。しかしながら、変革期に特有の興奮や活力を皆さんと共有できたことを、本学は誇りに思っております。社会は常に不安定だと申しましたが、日常的に変革を繰り返すのが社会であり、またあるいは人生というものであるかもしれません。皆さんには変革に耐える活力があるのだということを感じていただきたいと思います。講義を聞く、発表をする、レポートや論文を書く、実験や実習をする、という経験の積み重ねが、今後の社会生活のなかでさまざまなかたちで生きてゆくことは明らかです。しかし、そればかりでなく、最も感受性が鋭敏で受容力の強い時期を、社会から一步引いた場所で、学問や友情に包まれて過ごしたことの幸福や有利さには計り知れないものがあります。このことを可能にくださったご父母をはじめとするご家族の方々に、本学は皆さんと一緒に感謝を捧げたいと思います。心から御礼申し上げます。

本学は各学部及び大学院各研究科の独自性を重視しており、その教育内容や教育方針をとりまとめて一言で言い表すことは困難ですが、いずれにも共通して言えることは、本学で学び、体験したことが、社会に出て役立つようでありたい、と考えていることです。そのことが一目で分かる学部や研究科がある一方で、比較的分かりにくいものがあることも事実です。しかしながら、本学で培った、課題をこなし、問題を解決する能力が、社会で役に立たないはずはありません。さらに教養科目や専門科目を通じて得た教養や洞察力、他者への理解・共感力などが、これからの人間関係を構築し、円滑にするうえで、役に立たないはずはありません。皆さんにお願いしたいことは、それらの能力によって、皆さん自身が幸福になるばかりでなく、皆さんの身近な人々をも幸福に導くように努めていただきたいと思います、ひいては社会とか世界とかの幸福や発展に貢献するようであっていただきたい、ということでもあります。もし大学教育が、それを受けた者だけの利益を図るものであれば、大学教育には大した意味はないことになってしまいます。大学はそこに直接関わる人々のためだけにあるのではなく、いわば世界の発展のためにあるのです。本学はその強い信念のもとに教育・研究活動を行っています。卒業生の方々も同じ使命感を持って社会に巣立っていただきたいと思っております。

人生には困難がつきものとはいえ、包括的に見れば、人生はやはり生きるに値するものです。そのことを信じて、逞しく自らの人生を築きあげていただきたいと願っています。

最後に、ご列席のご家族の方々にお祝いと御礼を申し上げ、卒業生の皆さんの今後のご健康とご活躍を祈念し、式辞といたします。

平成21年3月15日